

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(10月5日～10月11日)

2021年11月15日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- 国営航空「ベラヴィア」は少なくとも12/14まで航空便の就航中止を延長予定(10/8)
- イラク民間航空局はベラルーシへの全ての旅客便を停止(10/10)
- 欧州メディア EuroObserver によれば、チェコ、スロバキア、ハンガリーの企業がベラルーシに不法に武器を供給したとの疑惑が浮上(10/11)

【ルカシェンコ大統領動静】

●プーチン露大統領との電話会談

双方はベラルーシ・露関係の発展の課題及び経済統合分野での合意の更なる実現の経過、10月14日と15日にミンスクで実施予定のユーラシア経済同盟(EAEU)及び独立国家共同体(CIS)サミットの準備、11月に実施予定の連合国家最高評議会会合について議論した。

(10/7 大統領府、ベラパン通信)

【外交】

●国連貿易開発会議(UNCTAD)の会合におけるマケイ外務大臣による一般討論演説

マケイ大臣は、西側諸国が他の主権国家に対して一方的な強制措置を攻撃的に適用するという好ましくない傾向が見られているが、これは国連憲章の条項に相容れないものであり、複数の国際的な義務とも相反するものであると指摘。

(10/6 ベルタ通信、ベラパン通信)

●ロシア系新聞社閉鎖を受けた露大統領府コメント

10/6、ペスコフ露大統領府報道官は「ベラルーシの『コムソモリスカヤ・プラウダ』紙の閉鎖に関し、同紙ベラルーシ支部の閉鎖が唯一の正しい決定であったように思われるとした上で、ロシアで権威ある人気の新聞社がベラルーシで活動を停止したことは遺憾である旨コメント。

(10/6 Zerkalo)

【治安・軍事】

●ベラルーシから周辺国への不法移民の急増

EUの動き

・10/6、プシダチ・ポーランド外務次官は、移民危機に関連して、ベラルーシに人道物資を積んだトラックの団を派遣すると決定した。

・同日、グラス・ベラルーシ外務省報道官はポーランド側の決定に関し、政治屋的であり、ポピュリズムのレトリック以上のものではないとした上で、このような求められてもいない決定は、ベラルーシが国家であることやその主権を明確に蔑視していることが窺える旨述べた。さらに同報道官はポーランド側の行動につき、難民を虐待し、各種の義務を無視しておきながら支援を表明するなど笑止とコメント。

・10/8、ポーランド外務省は、ベラルーシ・ポーランド国境における状況及びベラルーシからポーランドに対する攻撃的な行為に関連して、チェスノフスキー在ポーランド・ベラルーシ大使館臨時代理大使を召喚。

その他

・10/7、リトアニア国境から500メートルの地点でスリランカ移民の遺体が発見される。

・10/10、イラク民間航空局はベラルーシへの全ての旅客便を停止。

(10/5-11 ベラパン通信、Zerkalo)

●シヨイグ露国防大臣が、ベラルーシ領内で2番目となるベラルーシ・ロシア両国共同防空訓練センターに言及

・10/6、シヨイグ大臣は、9月中旬に両国で行われた

両国共同軍事演習「ザーパド 2021」を総括した上で、本演習により、ベラルーシ領内に設立された空軍・防空軍の専門家を育成するための2つの戦闘訓練センターの機能、並びに両国共同地域統一防空システムの戦闘当直の実施状況が確認された旨述べた。

・これまで、両国共同防空訓練センターは、ロシア領内に2つ、ベラルーシ領内に1つとされており、8/28、グロドノにロシア軍の対空ミサイル部隊が到着し、戦闘当直に就いている。

(10/6 Zerkalo)

●**欧州メディア EuroObserver** によれば、**チェコ・スロバキア・ハンガリーの企業がベラルーシに不法に武器を供給したとの疑惑が浮上。**

(10/11 Zerkalo)

【経済】

●**ベラルーシ原発を巡る動き**

・10/4、ベラルーシ原発の1号機が再稼働。7/12、1号機は自動的に発電機の保護が作動したため、緊急で切断されていた。

・同原発2号機では、発電機の物理的な発動段階に先立つ原子炉の試運転が完了した。

・クレイヴィス・リトアニア・エネルギー相は、リトアニア人がベラルーシ原発の電力購入を拒否したことで、ベラルーシは20億ドルを損失した旨発表

(10/4 ベラパン通信、10/7 Zerkalo)

●**世界銀行による 2023 年までのベラルーシの GDP 成長率予測の発表**

・2021年の国内総生産(GDP)成長率を1.2%と予想。春期の展望で同行の専門家達は▲2.2%の下落を予想していた。

・2022年の経済成長について、従来の1.9%の成長から▲2.8%減と著しく悪化すると下方修正。原因の一つはセクター別制裁の影響。

・2023年の経済成長は2.3%と予想。

(10/6 Zerkalo)

●**10/1 現在の金・外貨準備高**

前月比▲3,680万ドル(▲0.4%)の84億5,990万ドル。

(10/10 国立銀行、Zerkalo)

●**リトアニア国境で 270 万ユーロ相当の密輸たばこの摘発**

リトアニア国境で、ベラルーシからの270万ユーロ相当の密輸品が取り押さえられた。ラヴォリシュケス監視所の税関職員が、ベラルーシから到着したトラックを検査したところ、約75万束のたばこが見つかった。

(10/10 Zerkalo)

●**本年9月までの予算の赤字額**

セリヴェルストフ財務大臣は、2021年1月～9月のベラルーシの国家予算の赤字額は10億ベラルーシルーブル強(対GDP比1%以下)であったと発表。

(10/10 ベラパン通信)

●**中国・ベラルーシ産業特区「巨石」を巡る動き**

・10/6、スイス・ウクライナ合併企業 Robotics Corporation が入居。同社は、各種の金融取引を30秒程度で行えるインタラクティブ ATM である RoboBank や、500種類以上の処方薬を自動で処方できる RoboPharm の生産を行う予定。

・10/7、ベラルーシ企業「アクシオム・グループ」が入居。同社は農業・林業用途の特殊貨物自動車や機器の生産を行う予定。

(10/6、7「巨石」公式サイト)

【抗議勢力の動き】

●**チハノフスカヤ民主勢力代表の活動**

(1)ポーランド訪問(10/5、6)

・ドゥダ大統領、ドヴォルチク首相府長官、ハーヴィスト・フィンランド外務大臣と会談。

・ラトウシコ元文化大臣ら「国家危機対策局」幹部と会談。全般的な戦略と活動の協調につき協議。

・「労働運動」活動家と会談し、ストライキ基金の創設で合意。

・元治安機関関係者による内部告発団体 ByPol 代表者らと会談。一般のベラルーシの人々に「勝利の計画」を伝える方法や、活動家・記者の活動の安全確保等につき協議。

・ワルシャワ在留ベラルーシ人らと会談。

・ワルシャワ安全保障会議に出席。9 月末に国家保安委員会 (KGB) 職員が殉職したとされる事件、対露関係、新たなベラルーシにつきコメント。

(2) ブキッキオ・ベニス委員会代表と会談

・憲法改正、選挙制度改革につき協議。

・ベラルーシにおける弁護士法やメディア法の改悪に関し、ベニス委員会の介入を要請。

(3) ニュルンベルク国際法会議にて開会の挨拶
(10/11)

(10/5-11 チハノフスカヤ氏公式サイト)

【その他】

●国営航空「ベラヴィア」のフライト中止の延長

ベラヴィアは少なくとも 12 月 14 日まで航空便の就航の中止を延長する予定。この決定は、同航空会社が、以前に採択された制限と関連するフライトを実施することができないために採択された。

(10/8 ベラヴィア公式サイト、Zerkalo)

(了)